



## 主題：「響き合い、ともに歩む」 “Walk Together, Echoing Each Other”



新装・道頓堀の名物看板

- 心豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでいく —  
— Promote the Y's movement thoughtfully and hand down the Y's spirit —

朝晩の気温が低くなってきました。みなさま、風邪を召さぬよう、ご注意ください。

11月は、日本のワイズメンズクラブが国際協会に初めて加盟した日を記念する「ワイズデー」のある月であり、「Public Relation Wellness」をワイズ活動のポイントとする月でもあって、西日本区各地のクラブや部が、会員のみでなく、家族や友人、地域の方々をも招くようにして集う催しを、その多くはYMCAとの共催やYMCA奉仕活動の形で、「ワイズデー2014」とか「YMCAファミリーカーニバル」とかの会合名称で、開催しています。この催しでは、一般の方々にも有益な講演を聴いて頂く、ダンスや歌を皆で楽しんで頂く、YMCAユースリーダーが作った仕掛けや迷路ゲームなどを参加した子供たちに楽しんで貰う、ワイズが出店するおやつを皆で楽しんで頂くなどしています。地域のワイズメンズクラブは、その企画・運営に関わるとともに、催し当日は、クラブ名を掲げて、売店や喫茶コーナなどを出店し、また、楽器演奏やマジックショーなどの出演もして、この催しに集う人々を大いに楽しませます。西日本区の各地で開催される、ワイズによるこれらの催し活動はワイズメンズクラブの広報活動にも大きく繋がります。みなさま、これらの催し活動を利用してワイズメンズクラブの認知度を高める工夫にも意識を向けましょう。

10月25日（土）～26日（日）、ホテルクライトン新大阪で、「次期役員研修会」を開催しました。ワイズリーダーシップ開発委員会がプログラム作りから始めて当日の進行まで懸命にお世話して下さい、講師の方々力を込めたご講義があって、ワイズの心構え、ワイズ活動の基本や原点を再確認できる、有意義な学習の2日間を過ごすことができました。この研修会は、学習の面における上述の意義があるだけでなく、休憩時間などにおける声掛けや夕食会で交わされる語らいを通じて旧交を温め新しい友を得る豊かな交流の機会、そして、これからのワイズ活動を展開する上での気づきの機会を得る点でも、大きな意義がある集まりでありました。

今回の次期役員研修会では、1日目の締めくくりに、本年8月のインド国際大会において同時開催されたIYC（インターナショナル・ユース・コンボケーション）に西日本区から参加させた4人のユースたちによる報告プログラムが加わりました。4人のユースたちは、このIYCで体験したこと、感じたことをとても楽しく報告して下さい、彼らの報告から、環境・文化が異なる世界各国のユースたちが集まって、それぞれの文化を説明し合い、与えられたテーマに基づいてディスカッションする、なかには乏しい英語力でありながら勇気を奮って議論に参加する、押され勝ちな議論を押し返すなどする、その中で、いろいろなものの見方を体験し、自分自身の考え方の幅を広げてゆくなどして、ユースたちが自分自身を大きく成長させていることが良く理解できました。



西日本区理事 松本 武彦



## 11月の強調月間 Public Relations Wellness

ワイズデーを広報して、ワイズメンズクラブの認知度を高めましょう。

ワイズデーは、日本のワイズメンズクラブが初めて国際協会に加盟した記念日です。各クラブ・各部で行事・催し等がワイズデー前後にされます。そのことを広報してワイズメンズクラブの知名度向上につなげましょう。

広報・情報委員長 加藤信一（京都トップスクラブ）

### 今月の聖句

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

(ヨハネによる福音書 1 章 1～5 節)

#### 聖句黙想

ヨハネによる福音書はイエスの物語を抽象的な表現で「イエスはどこから来て、どのような方であったか」から始めました。クリスマスによく読みますが、何だかよく解からないけど凛としています。「言」は神の思いです。天地創造の時の幸せと命の輝きが失われた世に向けて、神が再び語りかけました。自分の正義だけを主張する人は、日の光に気づかない暗闇の中にいるのではないかと。神の語りかけは「イエスの生涯」という出来事となって私たちに与えられたとヨハネは言うのです。

西日本区チャプレン 江見 淑子

#### ◇ 周年記念例会情報 (2014年10月19日現在)

- |         |      |                |                          |
|---------|------|----------------|--------------------------|
| ・八代     | 25周年 | 2014年11月29日(土) | 八代ワイドパレス                 |
| ・和歌山    | 65周年 | 2014年12月6日(土)  | グランヴィア和歌山 (12:00-15:00)  |
| ・鹿児島    | 25周年 | 2015年2月14日(土)  | ジェイドガーデンパレス 2階           |
| ・神戸メネット | 50周年 | 2015年3月14日(土)  | 神戸外国倶楽部 (14:00-16:00)    |
| ・熊本むさし  | 20周年 | 2015年3月22日(日)  |                          |
| ・京都トップス | 20周年 | 2015年4月5日(日)   | ウエスティン都                  |
| ・東広島    | 20周年 | 2015年4月26日(日)  |                          |
| ・京都エイブル | 25周年 | 2015年5月16日(土)  | 京都ホテルオークラ                |
| ・岡山     | 50周年 | 2015年5月23日(土)  | 岡山国際交流センター (13:00-17:00) |





## ガザ緊急支援募金 報告

### ガザ YMCA による住民支援活動報告

日本 YMCA 同盟に寄せられた募金総額  
**1,766,834 円**

皆様の温かいご支援ありがとうございました。

募金 は、世界 YMCA 同盟 を通じて、現地ガザ YMCA のユースや子ども達の支援活動に用いております。下記、写真にて現地で行われている活動を紹介させていただきます。停戦となりましたものの、子ども達の心のケアや、心身共に傷ついた人々へのサポートはまだまだ必要です。どうぞ引き続き、皆様のご関心をお寄せください。

7月初頭から始まったイスラエル軍とガザを  
実効支配するハマスによる戦闘。約 50 日間続いた  
戦闘で、ガザでは 2,100 名以上の尊い命が奪われ  
ました。停戦から約 2 ヶ月が経ちますが、人々の  
心の傷が癒えることは無く、思い出が詰まった  
学校や家は破壊され瓦礫山となり、今も手つかず  
の状態が続いています。皆様 からお預かりした



着の身着のまま避難をし、家が破壊された子ども達も少なくありません。子ども達にスクールバッグが支給されました。



レクリエーションやスポーツなど体を動かすプログラムをユース対象に行いました。

爆撃音が鳴りやまず、寝ることすらなかった状況がひと段落し、仲間と再開し楽しく体を動かすユース達。  
“停戦”となっても、占領は終わりません。



ガザ YMCA のユース達が、近隣住民の為に食料配布活動を行いました。



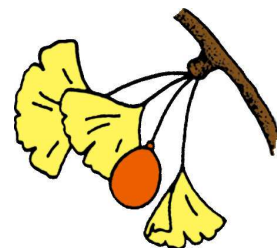
## ◇ 神戸 YMCA 支援イベントのお知らせ

六甲部は、神戸 YMCA 新会館建設を機に、より一層 YMCA 活動を地域社会に広めるために、活動主題「すべての命が光り輝くように！」のもと次のプログラムを実施致します。

1. スーパーキッズ・オーケストラ（佐渡裕氏が育てた子供たちのオーケストラ）
2. 基調講演 田口 壮氏（元 MLB 選手、現 NHK などの野球解説者）、
3. 映像を通して神戸 YMCA 活動紹介、
4. トークセッション「新しい自分に出会う場所、神戸 YMCA」

コーディネーター神戸 YMCA 総主事 水野雄二

- 1) 日本語学校卒業したネパール出身のホテルマン
- 2) 国際ボランティアリーダー経験の青年
- 3) 東日本震災ボランティアに参加した高校生、
- 4) 神戸 YMCA 高等学院卒業生、
- 5) 余島キャンパーの中学生と小学生



日 時：2015 年 1 月 24 日（土）14：00～17：00

場 所：カトリック神戸中央教会（神戸市中央区中山手 1 丁目）

収容人員：500 名 入場料：1000 円



### 区会計からの報告

各部会の折に皆様に献金して頂きまして感謝いたします。ありがとうございました。ここに献金総額と目的別額をご報告いたします。

献金総額 474,617 円

《内訳：東日本大震災復興支援 330,157 円 広島土砂災害復興支援 144,460 円》

※ 東日本大震災復興支援(目標額 200 万円)は今後も継続して実施いたしますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

### 理事通信への掲載

「クラブの周年行事」や、「クラブ事業」などを西日本区の皆さまにお知らせしたい時は理事通信をご利用下さい。毎月 25 日までにメール文章で、理事事務局宛お送り下さい。

理事事務局長 石津雅人（大阪センテニアルクラブ）

E-mail: osaka@m-ishizu.com



以下は、各部長を通して送付したメネット事業に関する理事の見解です。

2014年10月29日(水)

ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区

会員の皆様  
メネットの皆様

西日本区理事 松本 武彦

## メネット事業に係る新聞記事問題に対する見解

冠省

日頃からの西日本区各事業に対する皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

さて、西日本区は今期、メネット事業国内プロジェクトとして「希少難病問題への理解と支援」を取り上げていますが、去る10月1日(水)、京都新聞朝刊において、この「希少難病問題への理解と支援」にかかわるNPO法人「SORD」及び一般社団法人「ユニバーサルフィールド」について思わぬ報道がなされ、会員の皆様には多大なるご心配をおかけしていることに心を痛めております。

私は、報道当日の午後、直ちに、キャビネットと共にメネット事業主任等をまじえ当該団体の代表者から事情を聴取し、事実究明に当たりました。その結果、記事には一部誤りや推論による内容もあることがわかりました。そのことは、10月2日(木)、メネット事業主任との連名で各部の部長・メネット事業主査の皆様にお伝えしたとおりであります。

その後も、関係資料を取り寄せながら、当該団体に関する事実究明に向けて努力するとともに、緊急メネット事業委員会の開催(10月22日)、また、それを受けての常任役員会の開催(10月25日)等において、対応策について鋭意検討してまいりました。

しかし、現段階では、完全なる本件の事実解明に至っておらず、また、今後真相の完全解明がなされるにはまだまだ時日を要することが予想される実情にあります。

そこで、このままいたずらに日時を費やし放置することは、皆様のご心配とご不安を増幅するだけであり、今期メネット事業の進展も望めなくなると考え、ここに現時点における私の見解を皆様にお伝えすることいたしました。

当該国内プロジェクトの進め方に対する私の現時点での考え方は、以下の2点です。

1. **SORD及びユニバーサルフィールドの扱い**：これまで両団体が果たしてきた「希少難病問題の理解」等についての成果は認めつつも、事実解明が進まない今、西日本区としては、現時点では、「両団体への活動支援」についてはこれを除外せざるを得ない。
2. **部会等で寄せられた支援金等の処理**：当該団体への支援に充てることはせず、希少難病の研究者・研究団体へ直接渡すことにより、会員諸兄のご厚意を形にしていく。なお支援先の選定は、今後検討を重ね、事業委員会の結論をもとに理事において判断したい。

もちろん、これまでの希少難病問題に対する皆様のご理解の深まりを無にするべきではなく、各クラブ等の活動においてこれを何らかの形で生かされることを願うことは言をまちません。

なお、11月8日(土)・9日(日)に開催する「第2回西日本区役員会」において、メネット事業国内プロジェクトに関する活動計画の見直しに関する協議をお願いし、当該国内プロジェクトについての方向性を決めることといたしたく思っています。

現時点における上記理事見解について、皆様のご理解とご協力、よろしく願いいたします。

草々